



五以年表

ハ

リ伊5
760
86





武江年表卷之八

文政元年戊寅

四月廿二日改元

米穀びやく去年より豊饒ありて市中いちゆうの老おきな分限ぶんげん買かひ不ふ賤せん三さん首しゆを命めいせらる

○二月八日画人谷文一あふぢひつ卒す 三十二才号痴舟文晁の男 三月の以市中いちゆう禮れいを售うり老おきな軀くわ物ぶつ

○五月廿八日浪谷乃玄なみのの返かへ田でんの中なかより中ちゆう辺へんの女童ちゆうどう方かた

二寸半にすんぱんの金毛きんもうの龜かめをゆりり ○六月十日式分判通用始はじめる ○八月三田通寺町

大工某おほくさ為政むさしの小龜こかめをゆりり ○八月より十月まで回向院くわうげんにて紀州道きしゅうみち成なり親おや世よ

吉岡よしかわ姓せい 雲山小僧娘の鬼女ありし時の 九月二日儒師じゆし垂た琴きん乃の人ひと卒す 六十八才山本

○十月六日念佛ねんぶつ乃の君きみ徳とく奉ほう上じやう之の寂じやく小石川こいしかわ一いつ初はつ院げんニ葬まうる 六十一歳と云ふ紀州日言那志

四才よさいの時隣家ときりんかの小鬼こわい骸がいかいありて失あはりし 念仏三昧にて女子の所出家一髪を修

虎人こじんを化くわ奪だつ以もつ近年こふねんの願徳がんとくありて中ちゆう形かた人ひとの初はつ形かたありし 念仏三昧にて女子の所出家一髪を修

武江年表卷之八

己酉の初め星履の上の芝の下枝をとりてまゝをめけりて 仍若徳本

○十月十七日西小大風夕八ッ半時迄淡曇 隆秀の曼茶羅堂より出火花川

戸町(出世辺)僅小焼けて中の々は松浦彦中屋敷(飛本)新刻下おより

吉田町吉岡町三目四目の方(焼校)多保川隈江の辺扇橋向六万坪の隙ふ

く繕う一口は法恩寺橋通り(飛)小砂村延焼亡(堅)一里の隙あり○十月十九

日夜九時芝青松も焼亡○武江披沙成 写本太田蜀山著江戸志江戸砂子を解乃
出小漏言をそと集くれり云々

○江戸名家墓下一覽刊行 中古より江戸名家宗号没卒年月墓下を集む本々古丁目の
書体伊世屋平次舟号老樗軒の編少と捜索を勤う情む下板本
今偽り次

○十月廿二日司馬江漢峻卒 七十才不言た人と号し江戸と西洋画をうり仍りる
文ありてそを傳の紀をあげて西遊散漫記刊行せり

文政二年 己卯 四月間

正月廿一日大雪○二月龜田鶴高(高)高橋泉岳も義士の墓辺(碑)を建て

○二月八日(初)飯倉町六丁目(出)火二町余焼亡同夜八ッ半時新着町より

出火町跡左衛門町竹川町銀座四丁目尾張町三丁(出)火四丁目より二丁目まで

蟻地井伊彦(出)藩辺まで繕う南小十町除東西四丁(出)焼亡翌日登四時(出)焼

火(出)消人豆の喧嘩あり○二月画(出)北尾重政卒 八十才紅翠赤藍と号し板巻
住せり浮世繪中の云々あり

○詩人橋本如亭卒 辛七名祖
林門他 ○二月廿五日より飛戸天満宮法性橋社開帳

三月廿日境内より神田住人者本何某(百)多
歳の大さの紙(一)紙の字と云々 ○二月廿九日夜九時本町三丁目より出火

本町町室町尾川町小鞆町日本橋一石橋の隙延焼 ○夏より(出)病病(出)病

死亡のり(出)病 は許の病を借あうロリと云これ(出)病を避りて(出)病を探幽(出)病を鬼夜(出)病の
内ぬれ女の圖を写し神社(出)社と号し(出)流布せり(出)病を(出)病の(出)病あり

○二月十一日小田原より(出)本食の(出)沙門 名
親正 湯島田満寺(出)一(出)加抄(出)焼(出)光(出)形(出)雲

言(出)校(出)多(出)機(出)羣(出)集(出)夥(出)一(出)回(出)向(出)院(出)より(出)房(出)州(出)若(出)古(出)寺(出)親(出)世(出)者(出)用(出)帳(出)○(出)淡(出)谷(出)長

谷(出)若(出)木(出)明(出)閑(出)寺(出)遠(出)了(出)権(出)現(出)若(出)帳(出)○(出)三(出)月(出)九(出)日(出)浅(出)草(出)幸(出)祐(出)寺(出)若(出)若(出)上(出)徳(出)深(出)系

妙(出)免(出)寺(出)祖(出)師(出)開(出)帳(出)○(出)四(出)月(出)一(出)心(出)流(出)劍(出)御(出)師(出)橋(出)剛(出)跡(出)兵(出)衛(出)宣(出)根(出)卒 七十才 小石川
祥雲(出)中(出)尊(出)次

武江年表卷之二

○五月新小判を分判吹習七月通用 ○夏浅草橋場小根座吹新出あり
 ○夏回向院より穢穢清浄なる釈迦如来開帳 ○五月十一日函人清水曲河原 主天名 晁林連
 ○春より深川永代より江の高弁才天開帳 ○林田明神社地小願堂を建立せり
 ○此秋浪花より下り一田正七郎といふ若輩を人物を歎まはるの歌を傳りしを
 浅草より奥山より見せ物とて遠くをのり物影 ねがひ 親まの加護あてとあるかど細工 坊人こゆるやめさるいふ ○ま
 為國橋西詰小籠細工とて大なる酒類童子の形を傳り見せ物とて いふを井所籠うこ 師の細工より飛臺
 の傍よりね橋と彫りて涅槃の釈迦如来を傳りしを 飛臺の釈迦よりね橋の折るれいとて伝へん童子お政 向兩國あつてもキヤマンの焼籠葉葉
 船の造り物形も見せり是よりとてつゝ大造のつせ物あり ○七月廿六日浮世繪
 師勝川春英死 年分号九種故本本邦中若輩あり 葬儀牛島長命寺小碑あり古持國の冬 ○十二月九日夜所成乃井上
 彦法師を焼亡 ○十二月廿九日乾梨風来中刻三味線極依竹彦法師を焼亡より
 出火即時小向へ移り新沢彦市橋彦法師を南の影の方へ焼出又も越

明林社園慶堂天文系の辺茅町迄中野町屋も院多々焼亡翌日浅草
 茅町より出火とて二三町焼亡 ○月廿六日夜南新沢彦法師を焼亡は亦
 小火なり小在 ○儒師井上四明卒 名潜孫仲一号佩強園今年九十七才にて卒以 男を孫也といふ文政十年卒す

文政三年庚辰

正月元日挿花師奉相被一得卒 百三才浅草常盤寺の故住ありは竹 三圍のあり院内の碑文ありとて ○正月二十
 四日廿五日飛天満宮参更の神事始り 去年上級と極の程とて大宰府の例にあつて 此日を始む當社の今年よりトトト
 ○二月中旬深川沖一縣二喉寄る六る才裡の小魚之 ○三月十一日浅草
 五泉よりこれ松葉谷妙法寺祖師開帳 ○三月より深川深川のより舟延山
 祖師開帳 ○三月廿二日庚辰年庚辰月庚辰日不吉なる於五時年徳神を祭
 る事あり 此日之應永七年より四百廿二年 月不吉なりて支干月一とあり ○春より南谷村徳野十二社権規
 開帳 境内の池小籠船の造り物ありこの節日くあがりれば或人の相言ふ 十二より池小籠船ありとて人々出まふとて傳りし ○六月朔日



圓院にて信及長光の如來園地ある物邊にせ物多し出るちふ○不忍池の南西の端きき
土子とこととこ中細流を隔りて茶庭料理庭あり建物の櫓を裁てまの以りて後以

ける天保あましくお掛せり○六月六日夕方雷雨く墜る○儒師市川寛斎かんさい

卒しん七十三才名世寧せい○八月十五日夜月の内不月星入る○八月十七日麻布一本松氷川町林

系林再身煮子町より練物末を出ししん○今年正月より秋おひりり寺地成り

あま橋造天造の着せ物出るおのれりりりせをたふあり

△針金細工はりあま度小路へ出る△交蒙細工まう日奈△虎遊こ日奈△雨乞小町あめ徳東陽春常山作

△お尻の亀工かめ細工人胡蝶△茶番細工ちや細工人悦海川舟△煮茶湯細工に日奈出七太陰の音物乃十二才

△お尻の職人しやく△貝細工かい日奈出貝細工天保者造△七小町人形しち日奈出る△お孫細工お日奈出る

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく△お尻の職人しやく

武正年表卷之二

四

○真先稻為所神開帳 ○四月より回向院より羽州湯後山に控現丈日如來開帳

別當注連寺 ○鎌倉松葉谷祖師法堂 〇四月十三日画并盤

定家菅原洞秋卒 〇五月前達清の針牛込袋所代地友以并の娘

心物身肉より針を出入 〇二年の家主令以并の産をうてかきある事一をす老より

總計十に本を出て去年より谷小南所ある業程極小遊容一を所し所の家の産浦又二階(何と

も初れど産く小便を濁一を所あり又の業程極小遊容一を所し所の家の産浦又二階(何と

痛勢愈甚跳投床者無數須臾所點處皆拔出針長寸許以膏塗

瘡口三日而復云此名釘疽也

普神録云處士刺亮言其所知額角患瘡醫為割之得一黑石碁石

巨斧擊之終不傷故復有足脛生瘡者因至親家為割大所斲正

蠶其瘡其中為得針百餘枚皆可用疾示愈

○六月長崎より百兒齊亞國の産路陀二匹を渡以潤八月九日より西為國廣小

後不出く看せ物と云 〇七月朔日より回向院より且立郡性符本

除除院如來開帳 ○七月廿六日書家董堂致義卒

○九月十二日塙檢校保巳卒

○十月廿日書家山守卒

文政五年壬午 正月

正月元日雪尺小滿川 ○正月廿一日辰中刻日暈再重為傍小虹何り已刻小

除除院如來開帳 ○七月廿六日書家董堂致義卒

○九月十二日塙檢校保巳卒

○十月廿日書家山守卒

文政五年壬午 正月

正月元日雪尺小滿川 ○正月廿一日辰中刻日暈再重為傍小虹何り已刻小



至其消る国正月廿二日又同一○王子稻荷社再興翌年庚戌誌○二月六日哉
作者式亭三馬卒 四十七年卒所二月位号幸形庵 遊戯道人稱菊地太輔 ○投扇の戲世小形れ分てく小見

世をく多(備)を力く甲乙を争ひく八月小いりて停らる○春より草屋町
海老木おいて席人踊の足や物を歩 カシノ踊と云踊のまふ 世小形れて為國津川 大寺地の他り物をまふ

あも出以徳人これを志似 再云あの踊い大坂より始りきりし一蛇をまあひの 法俗紀聞の國中不扱むところありと云
くんとく日おそくわむる魚つるのくんとくをそく 蜀山人
わくの水も物を解そあぐまらとくも入窓の梅の文 日

○法藏前大護院より揚明天皇を興院太子園誌○三月五日より永代もあく
加洲徳利伽羅山長樂寺不動菩薩開誌○三月より深川浄心寺より鎌倉庁激竜

口寺祖師昇帳○四月廿日画人内田玄對卒 七年四月 名瑛 ○五月三日本挽町芝居分出火
○六月より森雨戸田川出水○七月十五日書家沼尻竜涯卒 七十九才 名甚章 ○秋山下

小笑布袋といり見せ物也 脇中をの造り物ぬあふの堂内ふ布袋のいぬ少くは像あり 雨は腹をまわりぬ少くは例もあはれを六發の目をまき一とす

園扇を括り踊る目のそくも屈伸ふ異あふ 末おはを因りて大あふ入るあり ○八月廿二日大風雨夕方津浪津川本場辺三人
陸上る○九月小石川赤城町津系津産子町より出り練物多り出 十八日晴天也 十日尚日あり

廿二日小延 廿二日小延 ○十一月夜中街取小出て刃物を以て蔵に盗賊行 十人くり 稲毛屋山 今戸屋裏より獲れ

卒 六十八才 ○十返舎元が作の道中條栗毛家和二年物偏を發せしとらありとせあられく 林官右史
今年近小四十六巻を著し今くは四編の終り編を合し五十七巻也

文政六年癸未
正月十二日麻布吉川より出火品川八ッ山辺一飛火品川本宿より穀洲迄焼亡 廿一才 名甚章 稱源亮

○二月八日倭人素刈卒 九十六才一陽井並池 今戸屋裏より獲れ ○三月八日書家泰星池卒 六十一才 名甚章 稱源亮

○淡草田圃藝大助神昇帳○三月十七日十八日淡草三社陸現系礼 甲余年月より 出る於郵集
先親の通神樂系形あり産子町より練物も花簾を争り○三月廿一日
川傍平間寺大師昇帳○三月廿八日より四月十二日迄王子稻荷神園誌

○四月六日太田南畝翁卒 七十九才名草標重三拜禮方をより一初名四方赤言といふ蜀山人 遠橋山人李花園木の殺号あり哉他の出教十級あり世の知るる

武江雜錄

贊せ六白山

○四月六日儒師葛西因是卒

六十二才名實 稱健翁

○四月十七日より二日の名

中村勘之介寛永の初身初より二百年目の素粒言身初 ○四月五月旱天五

月下旬より霖雨

○五月より回向院より攝河四天王寺太子園地

辛年目の 園地あり

○五月十九日より近立出水大川筋大水

徳谷堤切せ久保村と云処百餘石流 戸田川の傍一過流を止む

大川筋大水

新大橋の半つらより小柄系地蔵菩薩の上迄あり ○六月二日狂言師鳥亭

馬馬死

七十才名和み 号清洲楼

○六月十三日曉村田仲町二丁目より出火 ○八月十七日夜八

時より南大風雨所々人家を損す怪象人死亡の甚多 小川寺輪較海辺大浪

家を没しけるはあり ○九月十四日山本清溪卒

名正信系の人ありて因縁ありて此 江戸ありて終る年七十六

○十二月二日より知夜の方小慧星現る ○十二月廿五日夜廻町三丁目より出火

折居西水の風烈しく二丁目河原近定火消屋を一日ハ具坂より五丁目岩城

升をよとす其火直下をその所被焼り永田の場山王の門五町をよとす

の河門迄の岩流度の高橋邸数宇南ハ瓶坂より赤坂の市火消屋を田町丁

目迄焼亡此夜平川の社年の市あり混雜りふ斗りあり ○今年更不雲

○十二月十三日儒師松下葵岡卒

七十六才名寿号一戒 稱清志和鳥衣の姓

○月日 儒師情録鄰夜卒

文政七年甲申

八月閏

春より麻疹流行夏秋小重る引續風邪流行此夜更不路

麻疹の 流行あり

○二月朔日昼八時三時河町より南南角景漬屋より火出りて西水

の風烈しくふつれ鎌倉川岩本報町幸町石町十軒店被焼河町室町不

川町幸船町伊勢町小田系町辺日本橋迄焼

この時荒布被敷人押合て揮干 左右(河)水中に居入即死怪象

○内夜は時色音羽九丁目より出火橋本町目白坂改代町辺焼

狂言をまじ 火有り難

八王子寺野風杉田被焼 相生不焼亡

○二月廿日夜九時報屋二丁目より出火河下辺被焼せり

○二月八日六ヶ霊巖島の辺火災ありて誰りよとす一月の末より流言

一けるが此妖言の如く同日夜六時半時乙卯所南新堀二丁目より出火して淺橋
際迄焼る此時町火消岡澤不及い怪家人多く即死のりれも有り

○二月新次南鎌原通用始 ○三月十三日より浅草芝印寺より京妙満寺

祖師開帳并月寺示茲紀州道成寺の種清正公朝鮮より持来の大曼荼羅本

詳せむ ○三月下旬より山下より五重塔をせり上るるを物出

祖迎てせり上るる本五中の新塔の事 ○三月廿一日画人歟形蕙商卒

○四月二日暮六時吉原京町二丁目より出火廊中焼亡

○七月一東金道開始 ○七月廿二日八月十三日曾大風雨 ○八月中霖雨

○七月廿六日画人行桐處翁卒

○八月十五日夜乙申牛の

如く怪歎二足水より南(空中)を飛り光有り ○八月十七日園學若清水漬

○今年夏より花隠といふ画工あり

○九月赤城町林桑禱の時牛込榎町不火サ五尺餘の獅子

○十二月五日暮六時以芝田二丁目

○武蔵名所考法板成

○家夜十八卷字本成

○三月音金離子張富久卒

○三月音金離子張富久卒

○三月音金離子張富久卒

○三月音金離子張富久卒

○三月音金離子張富久卒

○三月音金離子張富久卒

○三月音金離子張富久卒

○三月音金離子張富久卒

○三月音金離子張富久卒

○三月音金離子張富久卒

○三月音金離子張富久卒

○三月音金離子張富久卒

○三月七日曉裂風小傳る町之目々出火通油町る喰町未乾燒○ビヤボン
と号一銀少く作るる笛なる小鬼の玩と云一不詳種苗 ○四月十日大風

○四月の始より藤八五文奇妙と呼て藤の葉を售ふりの術を考藤の葉をせり
がう術を考す

○四月廿六日儒師太田錦城卒六十才名元貞林才助
谷中一平子少葉次 ○夏より秋ふきり月を以て

人を威して血械町中夜番警
やがてあつまる ○五月廿六日淨瑠璃徳元並壽秋死徳元
姓の

元祖より延考 ○八月九日中川由義卒古才源世早南と号し書せよくは
ふんふを考すといはれて有世のものを今より考す

○八月未南小慧星現る ○十二月十九日夜五半時葺葺町樺芝居より出火あま

芝居焼元大坂町甚左衛門町住吉町入形町の辺乾燒す ○十二月廿七日

儒師河原遜齋卒四十才名遠業林徳出并
紀州の人なり ○東近郊圓板一枚板
中田惟善撰

文政九年丙戌

異変々地震 ○二月大雪二夜傳 ○日向院よりお洲名板荒人林開燒

○淺草唯念寺より下野之田山如來開燒 ○三月九日儒師龜田鵬志翁卒

半才身名無稱文左衛門善身堂
と号下谷金次少信也 ○秋又地震數度なる ○今年遊女出菊が百年の忌

小島よりとて淺草新垣永見も小墳墓を嘗む石碑小葉教お寺京保十二
林と鶴せり云云考すはあふあふ

妙く角所中万字屋敷を勝が花の遊女より京保十年三月廿九日廿九日
町光感より葬りたるゆゆの袖さししは餘の冊子どもみりしは水見まの万字屋敷を嘗む

あれは墳墓を嘗むとてあれは遊女の年月を記 ○七月九日暮時林田松田町より出

火南風より東林田町顔焼以 ○十月二日狩野素川彰信卒 ○醫師大槻

盤水卒七十才名吉澤と稱し若野蘭化の門人ありて蘭學を世に伝ふ
物産小妻より人男盤里二男盤漢と号し

同十年丁亥 六月間

正月六日夜九時の暮葺葺町より出火あま葺葺町新妓茶標あま居標町芳町

人形町通片側大坂町甚左衛門町之焼る ○二月國學者利倉惟徳卒六十
才

○葺葺より夏へて江の島上の宮弁火文開燒江戸より系譜より一金六十
才

浮橋名古も開帳あり ○二月九日西宮光昭も王雲室卒 七十五路山水を画く巧みあり又詩を多く

○二月十日より浅草も初世善宗結 ○牛御前王子権現開帳 ○深川八幡宮開帳

○肥前國上益頭那美波宮田原村産火堂武左衛門といふ大男江ノ東に今年 廿三才

火七尺寺量二十五尺日半又丁是名又守宗 ○南越入阿武松縁之助稻妻雷

といひ『火堂の志は作やの傘借くむ 更北馬』

五郎横綱免許 ○七月奉命丁日古丁日東側火除の為所家と取掛せられ

達内外跡は法門の外機回ふに於て代地をある ○九月神田町新築礼法

雇系止り附系十六卷折は成るより一冊を出 身物二踊臺七條物云と宣ひ引万

文政十一年戊子 成と格する物は時より止む

正月八日夜浅草幡随院の辺より火火とて延文末迄新焼とて院西極まで焼亡

○二月廿六日神田町武丁日湯屋より火火とて東風とて西神田町一園子

新焼とて北風ありて本浪町本町石町駿河町室町の辺より夜亥の下

刻結る ○二月廿四日坊上より火火 ○春川口善光寺如來開帳 門前新渡の

依持 石の園地 ○山王所系礼附系今年より廿五冊を成る 一冊あり

の社地石を置くと富士山成海々 ○七月八日持所伊川院法宗栄信卒 五十一

○鎌倉八幡宮御再建成 ○十月廿日等覚院抱上人逝去 六十八歳と云え

卯雨華庵より小尾光琳の画風 名揮真号文詮堂

慕ひひく一派を弘めたり ○儒師菅原宗海卒 名基孫文孫

同十二年己丑 五十九

今年の大小元禄十年不同トあり きくく 角が火を言の句を以て便利と

くろ ○正月十八日大雪 ○二月十七日又風音羽より出中草鴨の辺連焼亡せり

○二月廿一日北風烈しく己の刻に神田依る町武丁日石岩の枝木小松より火

出て神田川を飛く東神田武家町極一系小焼とて東の西園橋深濱町辺

武家方より永代橋より西八瀬町通りを例移り東例より今川橋向

年報町奉行河津治郷通教寺屋外近南ハ新橋堀留迄を掘り
 一ノ里の所ハ本町石町大橋の所小橋の所馬喰所横山所辺一系隈町尊
 在町為摩芝居牢屋邊辺小網町八ヶ嶺靈巖島鉄炮洲築地武家方西
 門迄より先海子小寺より佃島迄本橋町芝居系橋新橋辺町及新橋小及
 聖井二日新橋史以武家方新橋野々南小九里餘東西二十餘町焼死溺
 死の輩千九百餘人と云り此救の小屋九ヶ所を建てる新橋の全民を救也
此時紀州より野山一燔死群灵菩提の為小
吊をあり石碑を建てる
 四月六日未刻南風麻布長坂より
 出火阪倉斤所麻布谷丁辺赤坂溜池黒田家中郎源近焼亡夕方雨降り
 ○六月十九日より三日の石田向院まで焼死人供養別時念佛修りあり
 ○當三月類焼の町集土を以て龍閑町より元岩井町迄の石田除の土を成
築せしむる
十箇不ふかてり其合て立百半餘り
言二丈の幅六尺鋪九間あり
 ○赤坂八幡宮水代寺之開帳開帳 中丈

火中村四月七日連同帳
中後再開帳あり
 ○六月六日狂舟堂真願年七十七六 小川
 ○七月一朱浪通用始り神田

○八月下旬大川通出水子位住来留り
小位 月をとうれゆる夜はうらみの
は けさささるる雪のゆりゆり
 ○十月狂舟村田庵厚磨修神田
留町

此年間に事

○赤坂大園侯は藩詰中豊川稻荷有馬侯は藩詰中水天宮御免池田侯
 結中瑜伽山大権現園原村大聖院不動寺本心齋福寺親世音寺新橋
 勢侯妙見宮本系清修寺又西新井越持寺弘法大師牛込町南光院
聖王宮谷中吉祥院聖天宮月正堂寺鬼子母林信人の並系清修寺
 ○赤川清なる石像の上より井新修の若くは像を水にて流走○新井村梅照

院茶師如來小兒出封下の加持とあり○盆程のねま茶茶年音仍もま
救金にて賣買又南天燭の異おも弄ぶ千路本極本勇義盆程のねを造り
ひより又南天燭の異おも造り始む

○盆抄の法帖流行○左布の汗手拭を中り出ん寛永の末の長根ふあまの
この小件ふ布の多ゆひあり

○濃と引晴ふ小用ふの傘行○川越箭弓稲花社下徳助木村源仿明後津川六郎
堀一うら

社社江戸より多信人多し○後茶平右衛門町住後津川六郎
堀一うら

の色々の奇巧と業下造り出ん内四人を以てく回十六と春一むるの器又自在織と

号一居あつゝあゝく撒織る器の奇巧なれはくら回四隣をききかへ自主殿へ
價中きあもはれす 烟

を刻む器と組糸と簡易小作りの二器今有り和玉梅のやうに彩我木町小廿二と
ひつりより重箱といふ物を他りて商ひ始り十九四

度と粉色の草花と画の桃灯行○白き盆桃灯切子煙籠白き盆桃灯切子煙籠

晴雨計といふ小き本偶を商ふものかやのづくを以製以雨降時自掃ふ持○文政始のより大坂の石田五右衛門山修植江戸下りて林田保彦所不倍一けるが

或日家を以て後ゆふ代常小島とて垢付一衣取の俵も後費も終つて隣のものに代ふられも乃方敷れを由身小仍れ且人持てあり一借むべし

○神々の桃灯小玉画の巴を画く○又嚴島深町のちやうちんやとり始りて○申年漆箔再ひをり出ん○目黒石古坂橋中へ出する

天保元年度寅 三月閏 十二月十六日改元

正月十四日夜下谷路運ち火○三月町火消長股大伐鋸始る○閏三月廿日

狂奇師六樹園飯蓋車○申年八十八石川氏名雅望と号国学小在民男を庵外樓法徳といふ

○閏三月晦日雷雨下谷の辺の端ふたさく
目方廿亥或は廿午位

き戒名ふ米を入るりのり程なく止む○春の以よりや始り久保勢大神宮

おぶ夢来り流行し次す小諸園ふおよび○夏に以寺院小へく 霜ふる石塔を磨

桐舟の若きり始りしより四曲二条ふあり又糸太坂小揚りまより如く乃中能仍の病能仍後一ある智の美藤小降りて多信の遊まの電價を文け代仍飯菓子あを

養一金湯を紙を紙乃中要用の糸やふ小直後の若とてくも未官の若ハ被りてるは若くの藝昌言徳の乃ふふはとあむ十月の以あきくひり止む時持せれる

文政神異記といふ冊子小洋より京師の○秋より淺草寺二玉門修復○秋深川

板より春本林亭といふ人の編あり

紙江流

降ふより甲州身延山祖師開帳 ○八月十七日麻布一本松氷川神社祭
紀甲午年目より産子の町より出りぬり物未出る ○九月廿二日夜雜司谷
野新院失火 法明寺祖師堂新造堂外中このまは焼亡
鬼子母林堂長末社の所をありあき ○十一月朔日西新井徳持

寺後供養撞始り通俗群集する事おびまゝ ○十一月廿日馬家觀寓月
卒 七十余才名常能晩年景納と号
英二峰の門人深川陽岳より小華以 ○十一月廿二日夜本所新栗川所より出火砂村の辺

連焼亡 ○十一月晦日己申刻橋町三丁目出火若松町横山町細町を餘武
家方未乾焼 ○十二月八日夜下谷所切子町より出火幡隨意院寺外寺院

町を焼亡 ○十二月廿二日夜四時小傳る上町より出火小傳る町より同日大
傳る町二丁目通旅多孫町新枝木町堀町草屋町為産芝居寺外乾焼凡

六町小一丁半程焼る時七時の時 ○この冬西小伝るあり十月
い東九廿八夜未及

天保二年 辛卯

三月五日より十九日追龜戸天満宮開帳 ○春より淺草本菴より甲及山梨
郡休息村三心寺祖師開帳 ○築地町石橋南千二百坪餘新親埋立地ある

○四月深川要津より小島大妻本林下町末綿の裁層より製する本物紙といふ物を
麻姑む ○七月朔日遠山荷塘卒 三十七歳長孫念より小華内外の書籍小傳り又洞曲月
琴を善く北西廂記源歌月琴考胡言譯語本の編あり

○七月廿四日儒師西服棠園卒 名簡稱松石門
六十九 ○八月七日戲化者十返舎一九終 重田
氏名

真一下谷小伝る信也小華以中東陽院檀越あり
評世此書をいりやお暇おせん香ともいひあて左根あり ○九月十二日より極の内妙法寺祖師

開帳 ○日蓮上人五百卒年忌供養法苑宗徳寺勅祈 ○香橋所門外不於て親世
右史勅進能身祈あり十月十六日と初日とて晴天十五日の万身祈の宣あり

○十月廿二日日善里修性院の庵中不於て京師より下り不還堂といふ人文字
の字を書と 堅廿六万横十九万仙の紙を方式子殺焼
聖七の三年草名武万葉字其要秘あり ○十一月廿三日曉上野所本坊火

○十月廿九日夜本石所出火大久保彦下中江野焼

天保三年壬辰 土月閏

正月二日曉五郎吉清町より出火此所町南傍る町白魚屋敷等外野焼

○三月より浅草草鞋寺より下総駒木村流防町神園様 ○四月十七日より三日計

堺所中村島三拜草履十代目お漬の書札云身引 ○五月廿日浅草草鞋寺町本流

より豆及玉沢法華寺祖師園様 ○秋高健泉岳寺山門再建 樓上十六羅漢の像を排列

○八月十七日麻布氷川町神楽礼花火 遊物お出る中後中流を ○九月廿如来

寺の依り傍といふ若狭火の要具とて水車樋と号し井の水を繰上り器並ぶ

逆柄の柄杓を賣始む ○十月新次武米金通用 ○冬浅草寺観世音園様

○九月廿一日下谷乾泉寺町千束稲荷の糸ふ修の花火 ねり物を出さるに

若菜西河原の娼家より是を乞ふと屋上をり遊女売若菜若菜合十六人供て

落けるが各重たぬと云む ○十一月浮世繪師折川重信卒 辛余六 十六日江戸列島の日初雪降雲中

○十一月琉球人來聘 正使豊見城王子 前王の使澤抵坂方之 菅弦子列列

不川歌ふる雪いと白くふり積るる成りて 武義の糸とひゆいゆいゆいゆい雪の形はさなる 豊見城王子

まご 奉りり日

とくはみの底よりいづく日本の光をあやと籠のみや人 仝

○閏十一月十九日寅刻蹴町出火夜野焼 ○冬風邪流移後民に救米抄せあり

○續諸家人物志列行 若柳東里著先小糸の池永某がゆりて 日本諸家人物志の後編之

同 四年癸巳

二月朔日より寺島蓮花寺より富士山本尊大目如來園様 ○石巻池井寺

園様 ○芝泉岳寺 釈迦八相曼荼羅再修 寺外西野井徳持寺 江法大師増

上寺 芝泉池井寺 天王子稲荷神社 本下川某師如來 同白鬚明神 多摩郡

井の沢舟才天、新為越安盛寺妙見宮末開帳○山容正法寺也佐渡家系祖師在帳
 ○三月九日より浅草寺龍王寺より系於奉園寺祖師開帳○同日より永代
 寺より下総成田山不動寺開帳奉納寄進の品懸し○三月七日より相沢江
 の島下の宮舟才天在帳江より諸人より○四月朔日より永代寺より
 葛西濃江村親正より客人権現開帳○月二日より回向院より下総法苑
 寺社天上人像并地蔵尊開帳此時より新開帳を足る珠のたまき○四月五日
 浅草寺より太恭廣隆寺聖修寺子開帳○月八日より深川淨土寺より小
 田系淨永寺祖師七面明神開帳○四月十五日羅漢寺三市堂修復成今日
 昼時之中より親世より像を遷し○六月浅草寺より六天念礼今年より
 昔の如く神樂を渡し○篆刻家益田勤成卒七十才名傳 字万頃○世夏靈巖島
 東溪町の先小川辺靈神とてある何の神とも知らば一時小糸清群集しけ

るが終のるありし止り或人の祝小川を渡し時水中より上り一觸を○七月半の以
 たり湯島板生院の海上樹木の中小葉昏より雀幾百とあり群り集る野
 人等を我ふとらふたふらばとて或人云是の雀はたつて困回耕事あり税を奉る
 何よりこのありのあり人ふらふらぬありと未その是れを知らば
 ○八月朔日大風も家屋を損し樹木を折る深川二十二万壹半分倒るる
 怪家人多し○今年米價也揚し負民正救の米飭を揚る事度之写者み
 俄民旅一の米飭を所人各○谷中長輝山感應寺護國山天王と改む○十一月朔日夜
 八丁堀下町代地福本といふ酒樓より山火近辺に焼せり
 ○江戸名所圖會梓弓此書の寛政中祖父長秋居士の遺稿先考の縣磨の校訂あり
 甚精しく成りて降る不及いさりしもの先考没後遠程を降るべく庸も不委わらわのれが若
 冠の以りし鳥馬の強考砂より今ありて悔れをより巨匠杜撰の罪を先考においせさるんがわらわつ
 天保五年甲午
 正月七日中村佛庵卒八十才名景連林跡若史海考之の 棟梁ありし書せよ○二月七日小風烈し

天保六年乙未 七月丙

正月十一日明六時の神田焼燭町より出火皆川町永留町松下町二河町等
 丁目二丁目豫倉の岸迄焼燭並時亦燒亡す飯尾花川山の前聖天町赤仲町門前裏の赤田赤町
等より三日日焼くありて完焼し終り
 より出火廓中焼く所焼亡す

○二月八日谷中茶屋町出火此の日は
二日焼亡し ○二月九日林田町赤野町等より出火

聖堂町より河原迄焼亡 ○三月十日夜四谷々市谷迄焼亡 ○三月より

儀原町等より河原迄焼亡 ○三月十日より不思地赤才

天皇様 ○折高妙見宮開帳 ○四月朔日より三圍福徳開帳 ○四月より洗谷

長谷寺より赤芳洞観世音開帳 ○四月より月黒正尊寺鬼子母林開帳

○四月廿八日書家園克明亭亭より移り赤
号儀事 ○五月より芝神明宮焼燭因り

京邸六波羅密寺等より観世音開帳 ○儀原町奥山小韓信市人の跨せ

潜り木の木偶とて色物と見人形大二三二三天衣堂より珍珍程と緋木の料を用ふ
よ欠細なるれ飾り言の之を六面ありされは物少

○六月廿五日未刻地震 ○七月より儀原町赤芳寺より柴又村歌姫と帝釈

又板本等開帳 ○閏七月朔日より日向院より豫倉覚園寺某師如來巨像并

日光月光十二神等古佛開帳 ○閏七月廿日将谷掖齋亭一平才名望之内外の未詳
一人の秘法を三つあり

○閏七月十八日曉地震此後夜に地震あり ○九月より麓山小長耀山感應寺開建

立花法花 聖年ありて本堂撞壊徳門併房木ありて成徳寺巍然と梵刹あり
禱ありて廢せられたり

○十月百文錢通用始り没残を繕ひとす ○野明産人參の製を貧困の病人并

給官医石塚氏
製法 ○十一月廿九日夜上野山内火 ○十二月八日夜下谷金松石橋町の

辺より出火金松通り迄焼亡

同七年丙申

二月九日巳刻地震 ○二月十六日より芝泉岳より八相曼荼羅開帳 ○三月朔

日より浅草三社権現昇帳 ○三月七日より奥州折津高尾を虚空蔵井浅
 草舎念仏堂より開帳 奥州合伴の産七子の三つ子日開帳場に出る熱病を治す二男三男
 衆相より容貌よく片やう日尾前山先生品生薬を編輯せり ち内一
 六坂天保山の
 又世りもの ○三月十日より谷中妙福寺日親上人開帳 ○三月より永代ちあき

勢洲園府村府南寺本寺阿弥陀如来昇帳 ○三月より丸山興善ちあき松葉
 谷妙法寺祖師昇帳 ○三月より浅草寺権内淡島明神昇帳 ○四月朔日より
 永代ちあき葛西半田稻荷神昇帳 ○四月より浅草寺町蓮光寺より遠及
 貴名山妙日寺祖師昇帳 ○四月四谷伊賀町續新親町を出来て四谷新堀江
 町と号次 ○四月八日より大日坂妙豆院大日如来昇帳 ○六月朔日より浅草西福

ちあき甲丹焼籠佛昇帳 ○六月十五日より回向院より漢家親迎如来開帳
 ○六月十七日より十四日の宵本東大寺勸進布衣二月堂親世より開帳有り
 ○六月十九日夜黙の毛雨と降る ○七月麻疹流行 ○豊前守字佐八幡宮社所小
 深村寺あき赤坂の男兒二人

と程々梅の枝山出まてて西園小かへ見せ物より
 見十一日程壽と号し外ハ八丈程美と号ス

今年四月より日く雨降又曇又よて五
 月小降り霖雨止む時あき菜蔬生る事あり候哉昇帳諸人少く看せ物何ま
 らぬより物たり為園指畔納涼生る寂莫より七月十八日二百十日小降り
 且より大風雨家屋を傷損以て河川通出水あり是より米價一町小を揚し又
 のまより八月朔日先小倍も大嵐となり烈しく屋宇を破り樹木を折り怪
 我人何まのりよりをまのり溢る是より米穀減産しし法入困苦甚し七月より
 貧民は救とて米粥をあり又十月小降り筋違橋外より和泉橋連のり
 河岸通り小水敷の小屋を管てられ小居しめ食物をあり 此等水油拂底あり
 小童の油や火油を供む
 ○九月十九日藤北洲堂天鐘成今日供養持始あり 富家の娘
 持始む 貴族群集賑し
 ○十月廿二日浅草寺輪花焼亡 堂内より火火の焼亡一この時暫時のり
 此辺より為障の世々の利益あり一と云ふ ○十一月十二日
 夜四半時律回鍋町小横町より出火 敷焼 ○十二月廿九日夜振津門前茶屋所

焼亡○江戸買物獨案内三冊持仍

天保八年丁酉

飢饉きんのつき去年より賤民に救を下しある事云之○二月狂言師文あやかし舎蟹

子丸卒久保氏○赤川清心あかがわ身延山祖師因幡いんぱん○八月薩摩燻燻さつま始む

魚鱒うなぎと号次ごうじ○夜鷹よるや初はつ○八月十日朝より大風の人家を損下あき樹木を折おろ枝

人多おほ夕ゆふ方かた小こいいろろ七しち夜よ○九月神田神附案の内橋中町より同日より籠細工

の身物みものと出で出で○号次ごうじの趣向しゆきやうより意いと極ごくの美みの形かたち之の類るいより身み只ただ衣い裳しやう若わか組ぐみ木き小こいいの

○十月じゅう月げつ分ぶん後ご新しん規き吹ふききるる○十月十九日焼亡やうじやう古こ京きやう江戸町二丁目より出火

一系焼亡いっけい 坂宅山さかたくやまの宿しゆく花はな川がわ戸と赤あか川がわ八はち幡はた布ふあり

○十一月九日夕八時の地地震ちしん○日光山志五卷しご持もち仍なほ 推田十玄衛おしだ 通編とほ編輯へん 関八州路程全圖せきはつしゅうりやう一いっ持もち

酒井喜照著

同 九年戊戌 四月

正月十五日秋人行あきゆき岡寛光おかん卒す 林周浦はやし又また権太郎けんたろう号な都みやこ子こ周しゅう

若茶松町より火宮永町七新町外近辺に院焼亡○三月廿より半島白鷺

明神閑帳あきね○月十日より新寺町五泉寺より中なかつ儀ぎ香かう取と妙たう真ま寺てら祖そ師し閑い帳ちやう

○十七日より回向院くわういん之の井いの院いん并な又また天てん正せい院いん 院いんより人ひと形かたち師し泉いずみ目め長ながの細こよよててををの

○月つき下した市いち谷や茶ちや米まい稻い花はな神かみの正せい院いん 林はやしの遠とほりの為ためああままののたた儀ぎののままもも○二月に月げつ朝あさ在あ浦うら新しん規き

○四月十七日大風午の刻しほ小田原町武丁同湯ゆ湯ゆより共とも火ひ一いっ始はじみみ北きた風かぜかりりしし

南風みなみかぜふふりり伊い世せ町ちやう院いん戸と物もの町ちやう本ほん町ちやう石いし町ちやう本ほん張ちやう町ちやう辺へより今川橋通り西にしの鎌倉河

岸小川町武家方西神田町一系焼亡空町の辺へ夜よ成なり刻とき之の焼やつつ月つき取とりりしし

○閏四月四日夜よ鞠まり町ちやう出で火ひ○五月廿一日より永代えいだいささああくく武ぶ州しゅう多た摩ま郡ぐん長なが瀬せ御ご玉たま

川がわ明あき神かみ閑い帳ちやう○同廿五日より回向院くわういんより紀州加田淡島きしゅうかたたんじま明あき神かみ閑い帳ちやう

尊納物ありし者此屋焼
ありて半途より止む

○酒入降鮎より一板市中小濁り酒を製して集る家多し

○八月廿五日大風各地震○十月日本橋去年二月大坂より奉りし何某が二件

落居の捨札立つ○十月九日十日湯島天満宮地主戸係明神祭出たぬり物

ありしより遠をのり物群集り○十月十六日大風朝儀草所既河舟渡り船一艘

覆りて人多く死に○十一月八日夜木谷町より出火佃島延焼七翌日已刻終る

○同九日夜市谷左内坂出火○東都歳事記五卷梓行月峯著
長谷川雪且茶室撰画

○江戸方角註解一卷梓行三遷著

天保十年己亥

正月十一日雲二尺寸程積る○三月朔日より飛戸天海宮開帳

○三月二日西南大風土砂を飛走夕七時の小石川若宿谷より出火駒込馬士前小川の

武家方組中江町屋とも以夥く延焼之○三月二日より青山善光寺より

一先之為孫院如來開帳○同十一日より千駄谷仙壽院鬼子母社開帳尊納物あり

○六月十七日より回向院より川傍年間寺弘法大師開帳東あま小籠細十万の宝
船七福林のくせ物あり

○相洲江の島舟方天竺開帳江戸より
多務氏○四月為國橋所管清成時龜井町の

任人形師末吉石舟九十
ニ才は妻とも小渡り物せり石舟ハ誰の人形師にて是物
根舟の細二名あり

○六月十七日より麻布廣尾天現寺毘沙門天開帳○神田明神社一の為

居建政金費三千
金あり○六月末上野中堂の後三抱をりの大木風もあれ折る

○十二月朔日大風昼時色江谷恭宗より出火青山寺より延焼年及ぶ

○十二月廿六日言田吉定院より出火言田辺町屋延焼穴八幡宮の樓門焼失

○同廿七日夜吳服橋内秋元庵正藩邸より失火

同 十一年庚子

二月廿八日より王子橋所明神開帳○三月朔日より元坂田町世徳橋所明神

関信 ○三月三日より小石川牛天神関信 ○同六日より浅草寺町正堂より
 下総大野法蓮寺祖師宗信 ○月十三日より浅草寺泉寺より佐渡塚本根本
 寺祖師宗信 ○四月より根岸権現山内約辺福荷明社宗信 ○谷中妙福
 寺祖師宗信 ○四月朔日より芝村明宮内より天保宮内筆の像
 寺祖師宗信 ○四月朔日より芝村明宮内より天保宮内筆の像
 関信 この時境内よりありし土生狂言をせり ○同日より南善村慈野十二社
 権現本地親世寺宗信 ○五月より麻布善福寺関山像関信 ○八月十五日
 芝田町八幡宮系礼産子町より出た像物本出に止む 八月十日料
鋪掛月楼柳や
 仁宗善徳成社より 高美とす ○九月七日夜五時元親寺屋町より出た尾張町近形焼せり
 ○九月十日朝大風雨 ○十月十三日浅草寺本堂修復成就より今夜閣下刻
 本堂念佛堂 本堂善徳中本堂より
此堂小安堂一なる より遷座あり 遷座のり熱心を用
座中の外入る中とあり 終て留時宗
 帳あり道俗群集 此時本堂より我親世の末孫宗親の惟茂鬼女の親世宗信交祥の
草の関羽宗親宗親宗親の縁談の宗信ありしと善徳の時より

くる停再度揚るる
 あり惜むべし
 ○十二月十四日画人谷文晁卒 号写山楼又畫学初藤巻一七
文の孫と云浅草深草より宗信
 ○十二月十八日社田明神社所修復成就お付く亥刻遷宮あり
 ○朔明新嘉那二宮村百餘林助が孫長次郎とて十代方ふあれりもの六七年前より右眼自在不出這入
 を眼の玉大さす條ありありし物と服(祖)とや多後五世文を撰りつひに江戸小出より宮
 地廣場よりおひり 不深堂蓮翁著一巻
江戸法花寺院像起許伝未あり
 ○繪本東都本化乃物紀持行
 天保十二年辛丑 正月間
 正月六日夜四谷齊草町より失火四谷信る町外側町本焼焼羽立院
 近焼家 ○正月廿七日夜根岸の希茶屋所焼亡 ○三月より信通院内福聚
 院火災天宗信 ○三月廿八日より浅草寺親世寺宗信 奥山より驢馬を見せ物とあり又
兼川園九つある若くは不出て曲
 鞠を蹴るる物日毎小山を走り又淀川區五弁 同日より田向院あり徳谷寺宗信
とつりりの能りし具細工の物あり
 華蓮生像宗信 ○月晦日より青山善光寺より新木光寺親世寺宗信
 ○護国寺親世寺宗信 ○四月より茅場町茶師め来宗信 ○田向院より越

後高田長守も大師を修○浅草新町玉泉寺より□町市新村祖師を修

○五月十八日屋代輪池為卒名弘賢孫入家信房書國學小○五月より坊間の法度中

古不復す古の傳をり昔々令せり古の傳をり○五月廿九日俳人大梅居卒す

七十才始小山人ありて修外又克徒符を若く一後道彦宗門に入りて俳諧嗜り所為宗の富高小高居

周々助少り一家表て後元大町小高居一房母と号して菓子を售ふ孤山剗居木の号の法度中修

長院小華久源川長表も小碑あり門人卓即建之○六月より浅草念佛堂より公呂根荒

人神園修換内小大改細工人折文三の他○九月神田神祭礼の時今年より附巻十六番

と改り二番系と改り寺々和より三番より出確蓋地走り確係物の○あまの曲の万葉打まきぬく山がく

始り浅草田東町源水三を初む弘化四葉の○あまの曲の上風車立の曲あまの曲あまの曲

○九月为国橋為廣小路一紀州若山の生れより齒力鬼あまのとりののんせ物

小出りあまの磁器の茶碗を嚙刺り或は積の就就せりあまの小出り

自在小振ふ又浅草寺の奥山一狗馬と交つけく曲るあまのせり後小馬人とも小宙小狗上

るのんせ物も出り○十月七日曉七半時憐町より出火為産芝居協に古新町元大

坂所新和泉町新茶物町中外乾焼○十一月晦日夜上野大佛堂より出火佛

像焼損ト堂より焼亡八同十四年所再建あり慈徳為堂上人建立古地蔵の一龜

○十二月菱垣止ひげ仲弓十組商人中除冥加金上納免有り諸商人同仲弓所停

止あり○十二月十七日大雲三丈程積る浅草寺年の市指人妙一

天保十三年壬寅

○新曆頒行天保壬寅○正月廿七日大風の方源川山幸所尾花登酒より失火を辺

於焼あり○二月廿五日より湯島失火宮園修○去年十月櫻町草孫町の芝居

焼失後為産并操人形登浅草山の宿小出度下屋鋪の地引移るあまの昔の

る命有り一が當二月三日同ふくあまの勢地をト一あり四月廿八日より町名を藤若町と

引(き)きしりて三町分地敷許を万七千八坪餘とす此の趣申す者一里餘の地といふ所の五町に
十町より一丈餘の山あり又港の池の舊地と稱する所のあり池を堰く小祠を建つ小出家の山下中ノ谷の
橋をせしむる是より後寺敷改役若他町の住居を移せしむる三町の肉工住居せめらる又途中編み
せらるるものこれらもむむとて山の宿さるるまわるとよふ子なる也

○三月朔日より永代よりして津奈川觀禱備島○月三日より日

石川小日向約迎邊集鴨為が系近武家町を寺院多く焼亡は焼死怪象人駭

○三月十日酉刻本町回向院を元町屋上町焼亡

○三月十八日 官府より命せられて江戸端々料理業を陰に取拂酌元

女ハ吉原町へ今八月迄は皆引掛ひ若妻へ引掛りて鳴家△深川仲町仲町と稱せ△新地つれ

△古石場越中新石場日不廣定福焼山本町橋下山本町徳打場松村町△松井町松川橋

△吉原町高町△浅草堂前浅草△三田三角高台院△麻布市立清町

吉岡町吉岡町鐘撞堂鐘撞堂△三田三角高台院△麻布市立清町

△市谷おぐ谷谷前△根津つち△谷中のろは茶や大まき音羽町

△鮫ヶ橋△赤坂まめ田所之遊女の音よりよみといふよの者り

○三月廿二日小大風量時多物編為つより出火小川新宿小川南新焼亡

○中野宝仙寺不動尊開帳○四月朔日より高橋太子堂申堂福荷社開帳

○六月より回向院より南都法隆寺聖徳太子開帳靈宝殿の科とむねれを古物あり

○六月十五日山王御系礼所産駒也高美津川の昇帳よりして礼拝候り

○六月大傳了町小舟町牛頭天出内旅出の事當年々

○七月十九日戲作者柳亭高谷種彦種彦は年

○八月猿蓑所操芝居初鳥仍猿蓑○八月福池上白山社取拂

○九月猿蓑町芝

町目申村勤之并月二丁目市村羽た清つが芝居初鳥仍

○八月猿蓑所操芝居初鳥仍

町目申村勤之并月二丁目市村羽た清つが芝居初鳥仍

○十月琉球人來聘 正使浦添王子 副使府見親方之世茂の來朝也

杜むきぬのをさうとさう衣をけりりけさるる衣あみの花 五子

ねとをさうとけりりねを今も又天々八子代われりもさう 全

○所中勅法の子佛引拂

本報所親世より上野大仏堂より某解極不動なる所所殊
勅法一円不金此程極現の境受芽六丈の内坂中町成田藤樹不動
尊ハハ諸尊大儀院一平雨雷場秋葉控現の極場極泉も中一西の岸地極尊の嵐山一極もを外町乃
と号さるりの極一そ一とけりりれも院一極一又一極尊の嵐山の修驗正親の宅一列も有り

○南無人不知大諾右傍の横綱免許 ○當冬木挽町五丁目河原橋橋之船芝居

形日迄程を自中 命せられて後若町三丁目引移るべき程地を以て翌年

年秋あつり土木の功成て芝居拂りの若狭へ移る ○十二月廿七日
大雨雷鳴あり

天保十四年癸卯 九月間

正月廿八日重人長谷川法橋雲具卒

六十才名宗秀若岳一陽菴也の
号あり法華寺住持也 ○二月六日
夜より毎夜西南の方へ白虹顯る ○二月九日地震 用水桶のあこやろ程あり
已の刻あり

○三月廿六日大風至時巨根田を左馬の町より火火辺所へ移焼 ○四月七日書

家巻菱湖卒 名大任孫右衛門
一号弘舟 ○五月市井居住の巫覡修驗とて一極尊 古留の極
測量の極

濃谷豊澤村嵐山之地を堀り移り此所へ移る ○今年夏より大川通中

川渡を命せらる ○夏奉杖木町續の堀を埋めれ町屋と成る ○溜池の堀へ

る堀を築せらる ○六月二日夜大雷 ○九月湯島聖堂所著後成就

○九月十一日夜二十名燈三丁目より火火後座町へ外敷焼 ○九月下谷啓雲寺上野山

三山の禁小寺へ今の茶一様させらる 此町山下末見世縁也
五七の世なり ○九月後若町三丁目河原橋橋

之助芝居初再行 ○閏九月廿日明六時法華福井町二丁目火火茅町三丁目二町目

年吉野町少一焼る ○十月八日神田旅籠町火火 ○十月廿六日夜湯島五丁目

出火定火消法屋敷追焼る ○十二月四日夜芝居二丁目出火火火辺所を移焼せり

○十二月廿一日画八英一陸卒 十餘才二才極
兼教中顯宗院の三孫 ○十二月廿七日夜西風至時以般作

橋内より出火五節を清町より多町白魚や、江小井屋町弓町の辺一系尾張町より本松町西門前の際武家方追振座町本松町江岸を介救うに焼亡廿八日於東風又怒り救急座町本松町加賀町山王町丸登町出雲町の辺に焼亡夕七ツ時迄終る ○古金銀紙幣別式米銀紙幣米銀紙幣未通用を傳ふる

此年同記事

天保七八年の次より日本橋四日市箱橋新町本松町新美結あつたありとて新橋とこむる若原橋を築き、又文政の次より四谷新宿のふじ文院小安どる所の奪衣婆(口中の病を治りて糸治の若きなり)が氷の今よりこり、殊盛よりり、殊盛を祈り日米百慶系の築き、○雜司が合法明る塔頭毎年十月念式の飾物止む ○神社佛閣の富身形文政中殊小盛より、救十を救ふ及ひより天保の末より止む ○因幡村は梅園を採(救百株を栽り)ねるを定(毎

妻遊観多し

この頃の号次 東生といふ

○獨搖草天竺牡丹ヲキサといふ草なる

獨搖草の形状 合致小竹より

を以て採られ、即時小葉を離れ合致の

形、眼よりや、初葉ののち、

○蕪茶の會ひなる

狂画一立舟廣重の山水錦繪なる

○現在の文人墨客諸藝人又流傳物も成

南力小なり組甲乙を記せし物なる

○六字南を右出づ左門より、

ころ小流を

せぬる女をまはれて場を擡(る)座を

ひきて、

方去るの浮瑠璃をうりける

若くは、

若くは、

若くは、

若くは、

若くは、

若くは、

をいそいで容貌の美態を論(る)どるがやがてこれを禁せしめ、

○横柄の深物なる

○近世文墨の士殊小多く名流達士も随て胎(る)く、

一されど現存の輩は、

○人情本と唱(る)く男女の私情、

のさるを、

○近頃月琴を弾(く)る

さぶりの多し

○皇朝管を弄(る)む、

下より、

下より、

下より、

下より、

下より、

のさるを、

○近頃月琴を弾(く)る

下より、

下より、

下より、

下より、

下より、

さぶりの多し

○皇朝管を弄(る)む、

下より、

下より、

下より、

下より、

下より、

のさるを、

○近頃月琴を弾(く)る

下より、

下より、

下より、

下より、

下より、

さぶりの多し

○皇朝管を弄(る)む、

下より、

下より、

下より、

下より、

下より、

のさるを、

○近頃月琴を弾(く)る

下より、

下より、

下より、

下より、

下より、

さぶりの多し

○皇朝管を弄(る)む、

下より、

下より、

下より、

下より、

下より、

養育も次第にたゞりあり毎年正月二月は香茂園ふとあり都下の香庭
兼市亦不令くく香庭の美悪を論一風流の名を説くを以て春日と号し
るの香庭妙ありて天下才一と稱す三笠山と号するの号は無りとて隅田合
某妻を淫一巻を著し畜畜の法を解嘗の痛妻くく号する

○寒暖計と号し四時を暖を量るの器なりりたる兼人持信りの器ありて
本邦にて製し始りてより之○深川仲町一香居の傍に在り軍出を毀て町を以

弘化元年甲辰 十二月十日改元

二月より牛の所前王子権現開帳止む ○浅草寺町本務より上総五葉
系妙光寺祖師開帳 ○中延八幡宮開帳 ○龜戸天満宮開帳 ○妻小夏小夏
為國橋西廣小路小夏より伝を撰り約中一休作着作下谷の位 あり小夏妻の曲とせん
マイくく之と交へて見せりとのひえ物山の如し
これ小夏ひく浅草寺に在り奥山傳ひといふ
約中一休の題向小夏ひく約中ひくひくを文

四月五日夜九時小
石川下宿坂町より火火して物店近焼
生月縣大橋つとりのわ撲取来り
別の六七尺五寸三寸三寸三寸
一尺一寸八分十八分十八分

西廣小路芝居小屋崩して即死二人怪人救あり
小田原町二丁目より火火伊勢町水戸物所近焼夜九時終り
曉八幡田所湯屋より出火くく元大坂町長谷川町延吉清町元濱町油町等外

町富澤町に近近焼朝立所以終り
○七月廿八日能師田喜菴護物卒
○越後の若男女の侏儒ふ踊りやをくくせ向あ國ふ於て着て物といひ
○十月より果鴨

深井葉の送り物再び始り
文化よりこのころに花燈のいふ送り物あり今年果鴨あり美感院
の會式の飾り物とて宗祖の神のさる昔古近法の新あり葉花とて送

りてより飾り植木や毎葉の送り物とて送りて流るる形に巳年より白山の約近法中より送り植木
送るるぬ家手でもきをひく送りて九寸半形あり及り平儀の送り物毎葉送り終年送りしり
あはれの小みりて
○十月十七日より王子橋前町神開帳 ○系師の画工岸約が男岸良は

戸小来り浅草親善堂（揚香の額を掲ぐ） ○今年長壽の人水口壽山（百五才） 末吉石舟（百才） 花井白叟（九十才） 大岡雲峰（八十才） 前小松為一（八十才）

弘化二年乙巳

正月廿四日小大風砂石を罷り置八時過青山権左丞續三郎近所武家地より出火一々一町小焼ひろがり或飛火して麻布三軒家一本松右辰坂辺六本木龍土市吉野町横回町永坂辺廣尾白金魚籃親善大信子の辺二軒援伊四子権町吉藤兵衛町小焼亡く海幸あまする夜ふ入狸穴三回の新細町の辺焼亡成下割落る武家寺社救を初り以町救百廿六卷町焼死怪家人或ハ海辺の者若候の火ふ包れ海中ふ溺れ死とるりのと合せて幾百人といふ事を知り以赤羽橋の側は救の小舟を建て救焼の負員（いん） 民と育せしむ。 （い） 夜何れの家よりのがれ出り荒能正人辺の中を狂ひ走り其度の藩内へ逃入る家臣伯某父子二人あては留り又ハ火事の防白金臺町二月禪宗西聖子の妻つ小松右助のり越師の草堂明山と謙字よて出づる扇額火中みく焼る町和九年以人坂の火のふ危く焼るり今年ハ門焼落る類のく焼る者多し以瑞雲寺長福寺麻布氷川社を頼る子堂庚申堂

縮着社衆集る如象 （電） ちあち強り （高） ○二月雲叢高より集立化成る後町を建て富修町と号し

格の （南） ○三月廿七日曉七時半時柳原左丞續富松町より出火久右衛門町豊島町火和町江川町橋本町辺小焼る町塩町油町回所町堀留町新林本町より長谷川町吉砂町辺ありは十九町の敷焼より又七ツ時ごろありは焼火ハ

○當年閑暇ハ二月九日より牛所前王子権現（去る跡） 同日牛島蓮花寺弘法大師二月廿五日より井の沢糸又天同廿八日より同是不動寺三月二日ハ川口善光寺如來今年半堂の下を協て戒壇出づ （あつりり） 同五日より浅草寺町泰宗寺兼師如來同九日より吾妻森在如心門坊後一坊後揚せりける

妻権現同十五日より増上寺芙蓉例并又天同廿日より川口錫杖寺天満宮地蔵寺四月朔日より芝社明宮内并又天同日より深川洲崎并又天同日より品川海晏寺并又天較次親世寺経院如來四月より出村本坊も鬼子母神五月廿五日より葛西柴又村帝釈天七月朔日より愛宕山内并又天 （山の下の山堂） 右何れも自坊

不於て災候あり ○七月より浅草寺町正覚寺より中山鬼子母社災候月ト成り
 廣尾文現ち鬼沙門天目蓮尊像ち金毘羅権現開帳 ○八月十日より小石川
 白山権現移り八幡宮災候 ○三月十五日おね江の橋上の宮弁才天開帳江弁才
 系清多し ○五月浅草寺五重塔修葺 ○九月牛島而て裁木極ち院あり
 業の造り物出あり ○九月横濱町より聖天宮表門の通一志直小路をむく
 ○十一月廿八日俳人自焚堂風朗卒 飯多住持若山堂宛對井
この谷中 天正の御事 ○十二月五日暮六時吉原
 系町武丁目より火廓中焼亡 飯宅の荒川戸山の宿屋五町丸町浅草山川町田町移り越山
谷津川八幡より同春村町佃町同為聖町八幡宮表門より系
陸奥中一丸町の隣中丸入江町若島町
八幡を隔ちて弁才天あり 松井下あり
寺より寺一掛て飯宅をむつて以午年九月元地
焼成て引移り
飯宅の二百五十日限りとて元地に移り此限ありふ出まると居てをて妻妻若山園弁才
永福名家三長女とていふおね若山と稱を名家と改む
 ○十二月十一日夜坂本町より火芽場町表裏業師境内焼亡
 弘化三年丙午 五月間

今年正月元日より三日迄の若牛房小毒ありとて俗流流れし者人愈々有し
 ○正月十五日北風烈しく砂石を飛ばし夕八時の小石川岸町の小武家地より火一
 て丸山へ移り本妙寺菊坂の辺より本町河町より元町辺又本町通り湯島町まで
 東本町辺神田明神門前 神田社様の境内社系湯島
天降堂聖堂のあり 依籠町仲町の辺より湯島地火の
 駿河橋へ飛て小川町へ焼込東西林田町へ系焼亡一今川橋向の本町石町堂町火
 傳馬町小田系町小舟町堀江町小堀町茅場町八丁堀濱町永代橋際連雷巖
 島築地浅能洲佃島 本町の邊
中島 南ヶ谷小のりる為の江堀橋通り神田より一石橋連日
 本橋の向の通り目より本町連系橋より系焼焼と行る小色れ町へ連連と
 阿れとも移り所あり一羽五十六日の晝九時の之炭所の井河着ると移り長九一里十餘
 町大小名は藩邸敷せ初り本町枝武百九十餘町焼死怪赤人殺り小いと夜阿れ湯
 島田橋より三層の多宝塔 聖山より人達
寺の傍あり 又妻島橋荷社 道に再建して在
る社あり 也此時焼より

正月十一日夜亥刻下谷通新町より出火千住三昧の寺院跡らに焼亡を○正月廿八日曉丑申刻桶町より出火三町程焼○三月三日より西新井弘法大師園地○三月廿五日より関系不動寺園地○月十八日より浅草寺觀世音園地○三月より浅草焼町より向二町の弥陀如来園地○湯島社地より野島地蔵寺園地去子の跡、日におあり

○五月より浅草寺町大佛より武及馬場村麻呂神園地○三月廿五日小山田与清卒國學院より初名多田茂重又官拜左衛門後小山田与清と改号如永我松の意、推名舎といふ今も山手三十三天源川若敷寺中、美哲寮に葬ら

○河東碓氷居妻の狂言中、春巻鹿春の正徳を伴ける世に終れて諸人酒席の戯れにこれを思へず○浅草寺より東山へつた世物又出るとに於て茶の人情を造る人のなき一丈餘煙草へのよき三万半あり

○六月廿一日より浅草寺より止ぬ後つらつらと惣火一丈餘の物

○三月廿四日信州大地震人多く死に江戸も夜少一の地震あり

今年三月八日より川中島長考の如きの園地ありて諸本より集積集積するの稲穂ごとく一掃す不
 淺草山の相違よりも滅する浅草寺に居る三月廿四日晝夜快晴とありしが夜半の時以て餘り大地震
 ひわい、主地は家屋を覆し、壁を打たれて即死するもの数千人といふを知らず善光寺近辺の旅宿に未病の
 世物あり合してこの禍も遠くありのたとも不救なりを罹りて倒れる家より大勢少く、大勢少く善光寺の本堂
 へ傾る所は跡より中修へ悉く灰粉とせんぬぬの山中へのりて利益を蒙り一會成金合せりの救あり

又雷雨の如き雲雨りて高より中一、夜明けより近半餘雪四月青ふりてくも終止るなり、大蛇(鯉)けく泥
 砂湧出、是より入る深淵入丹波島より二里川上、虚空窟山井丁程處を、犀川へ流入洪水溢る、丹波川水押出、
 左右の山に、燒死の人を数といふを知らず或は、記す二分人といふ、大丸の積りて、焼くこと一、水内郡の跡、
 毛、つらつらと、あはれ、他山出れぬ、温、二村を流し、あく、せ、終る、りの、由、寺、跡、より、米、穀、を、と、ぬ、道、り、る、後、不、
 復、此、の、る、地、震、に、止、時、より、用、水、の、泥、水、と、あり、る、遠、方、に、濁、り、若、く、程、あ、く、官、府、より、小、屋、を、建、つ、れ、て、こ
 の、窮、乏、を、育、し、食、物、を、給、り、け、り、そ、後、を、年、の、大、厄、中、に、す、り、毎、一、戦、慄、以、屋、地、の、前、門、前、より、多、る、を、私、を
 建、つ、れ、て、夜、より、つ、り、あ、る、ま、は、ひ、の、方、を、あ、つ、再、建、つ、ふ、又、別、方、也、三、段、小、の、り、て、晝、夜、番、を、付、り、是、の、凶、妻、を、知
 ら、め、あ、る、ま、は、ひ、の、方、を、あ、つ、再、建、つ、ふ、又、別、方、也、三、段、小、の、り、て、晝、夜、番、を、付、り、是、の、凶、妻、を、知

○五月十六日曉八時半時横山同明町より出火橋町了喰町横山町辺焼焼以終り
 時終る○六月八日傳る町小舟町天王神樂所旅出のり去年、近きもの有体、今年
 より後、より、あ、る、ま、は、ひ、の、方、を、あ、つ、再、建、つ、ふ、又、別、方、也、三、段、小、の、り、て、晝、夜、番、を、付、り、是、の、凶、妻、を、知

○十月吉原秋葉控觀念の時花出、ねり物も多、出火○吉曲類纂六卷 持仍月峯若

此年同記事

根岸新田といふ所は梅屋敷と云々、園中廣く、松と紅白枝を交へ、頗る壯觀あり
 唐之屋右出といふ所も、堂の舎あり、柳林地を物事の里と号し、堂の名、和と、唐と、東、山、寺、院、主、某、初
 吉の里の由あり、を、作、て、い、は、し、碑、を、建、つ、る、碑、は、た、南、時、に、戸、小、佛、れ、り、堂、の、名、を、稱、し、て、あり

○革毛といふ條毛石垣をりつとひ隆輝和をりつ ○谷中陽林寺塔久成院妙法
善神社新築の考あり ○高橋石神門不安春と境内に福あり ○七年以来雲降ると稀
○繪巻といふ或れりるせんしうくつらつらと畫を施し餘人これ小孝と加へて画する所の哉あり
火の事へさりのみあり

嘉永元年戊申 二月十六日改元

今年の大小章の字を以て暗記に運筆の順あり終を小に横を大に以て章 ○二月六日より晴
天十五日のる筋遠橋所の外加を系より於て室生太夫觀進能身なりりり五月十三日小侍の鳥
羽の日毎小遠をのせ給輻輳して錐を立るのあり ○二月廿九日小芝原を八に曼
茶産開帳 ○美六阿弥院如來六所開帳 ○二月三日小青山善光寺にて大坂元
寺延院如來開帳 此の善光寺本堂
善光成神せり ○三月廿二日夜赤坂表傳町寺子同く出火救て町焼亡
○四月廿九日遊山遊山上人化益 日御寺縁起あり
ね秀より寺にあり ○二月廿九日喜多静盧卒 八に才名性言
性言寺号橋園
○五月獲國寺の山内松の梢小僧榮せり ○六月初旬より旱

○六月廿五日十八日日向院にて縁縁秋如來開帳 今年の縁縁法例よりいり種内廣人御
奉出候り候と云くつらつらとせり

○七月小滝草平義寺にて甲州青柳村福昌寺祖師同不蓮光寺にて上総興津妙光
寺祖師開帳 此の
寺あり ○八月浮世繪師英泉卒 ○八月廿三日北島玄惠法印五百年忌

市谷仲の町金春氏之能并狂言身なり 此の
身あり

○八月廿九日所連哥師壽阿弥墨齋卒 今才号如來縁菴空草號号刺神仙と云
嘉永二年よりして百十年之今年迄越つる也

○八月廿九日所連哥師壽阿弥墨齋卒 今才号如來縁菴空草號号刺神仙と云
嘉永二年よりして百十年之今年迄越つる也

仲町大路小堀接井と極あり ○十一月六日曲亭馬琴卒 今才号解号長を去同善他堂の松号
あり松濤は清くありと云羅敷をいへり

○十二月九日夜亥刻小泉川安仍新宿より出火寺子目連焼る ○目連仍人坂大園あり

○川口善光寺本堂重修落成 ○林代文字考一卷梓成 崔峯成申
編輯

累宗風も昔小順ひ百穀豊饒ありて都鄙の良賤同を獲る幸多かりしを殊小快楽哉

同廿六裏 小奈木川通新堀出来人改新番新深川只建之記せる様あり此時迄
 深川は今の當年橋の傍に年々中川の口に移されあり
 三二表 橋上寺洪養持物師推名伴縁吉寛不改むべし
 同表 延宝三年の下ふし郊とあるべきは改むべし
 同四表 仮名世説より國町の治法といふ事帯を引てふまのよこと訓せり
 これいさくちゅうのよこと訓は下り別名町のよこと
 同十二表 貞享の洪水より六郷橋の流きくるは月三年宮古月日十二日ある交
 の水は橋下より一語一言あるべし
 同十五表 善光寺を先居者に改むべし
 同十七表 江州山山を是の江州石津と改むべし
 同十九表 縣宗知を場と懸と改むべし
 同二十一表 英一察持世のあす下の句をたや空平の爲書の月と改せり
 同二十三表 富士の若若若若とあるは爲書の爲書と改むべし
 同二十七裏 富士の若若若若とあるは爲書の爲書と改むべし
 此除尚様謬ありんも知る所なりは度幾の日志の人の編りて改補ひ
 得るをせふしありんり改
 庚戌季味ありしあるは

后輯四卷備書 宮城昌成

齋藤長秋居士編述

江戸名所圖會

長谷川雪且先生画

上帙十冊 全二十冊出來
下帙十冊

齋藤長秋居士編述

江戸名所圖會拾遺

長谷川雪且先生画

全十冊近刻

齋藤月岑先生著

東都歳事記

長谷川雪堤先生画

全五冊

齋藤月岑先生著

聲曲類纂

長谷川雪堤先生画

全六冊

每歳ニ江府ニアラ元神車佛會並貴賤ノ風俗マテ
 四時ニ分チ記シ遠邦他郷ノ人ヲシテ江戸ノ歳時ノ
 盛ナルヲ知ラシメントスコレニ加フルニ花鳥雪月ノ佳境
 ヲ載ス多クハ郊外ニアリトイヘドモ江城ノ良賤歩
 ヲ運ブノ勝區ハトモニ記シテ遊觀ノ助トス
 淨瑠璃節ノ世ニ行ハレヨリ流汎ノ分レタル年代ヲ探リ
 アツム卷首ニ系圖ヲノセ概畧ヲシラシム小野於通ガ傳
 三味線ノ権輿ヲ詳ニシマタ寛永正保ノ頃古圖ヲ徵ト
 シ末ニ曲節ノ名目伊勢音頭湖末節大盡舞四竹ホ
 ニ至ル迄委レクソノ由未ヲ記ス

嘉永三年庚戌十一月刻

大慈齋橋北久太郎町

河内屋喜兵衛

同心齋橋通博勞町

河内屋茂兵衛

同心齋橋通安堂寺町

秋田屋太右衛門

發行書林

江戸日本橋通二丁目

須原屋茂兵衛

同 浅草茅町二丁目

須原屋伊八版

京都三條通片屋町

出雲寺文次郎

提醒紀談

山崎美成先生著
佐竹永海先生画

全五冊

此書ハ近世の明矣良辰隱居奇人ノ所撰ナリ
此を記し忠孝の心も亦く也儉約賢素を為し
奢侈を戒る紙も亦く其の法國の奇談又亦
懐遠の金外を裁り此の法を以て其の事
多く其の法を以て其の法を以て其の法
の心も亦く其の法を以て其の法を以て
其の法を以て其の法を以て其の法を以て

嘉永三庚戌歳冬新刻發兌

此の書は近世の明矣良辰隱居奇人ノ所撰ナリ
此を記し忠孝の心も亦く也儉約賢素を為し
奢侈を戒る紙も亦く其の法國の奇談又亦
懐遠の金外を裁り此の法を以て其の事
多く其の法を以て其の法を以て其の法
の心も亦く其の法を以て其の法を以て
其の法を以て其の法を以て其の法を以て

同 浅草茅町二丁目

須原屋伊八助

屋源助

屋佐助

屋新兵衛

屋茂兵衛

屋平兵衛

屋徳八助

屋大助

屋金右衛門

屋佐兵衛

屋嘉七

屋太右衛門

屋喜兵衛

嘉永三年庚戌十一月刻

大慈齋橋北久太郎町

河内屋喜兵衛

同心齋橋通博勞町

河内屋茂兵衛

同心齋橋通安堂寺町

秋田屋太右衛門

發行書林

江戸日本橋通二丁目

須原屋茂兵衛

同 浅草茅町二丁目

須原屋伊八版

發行

書林

京都三條通升屋町

出雲寺文次郎

大坂心齋橋筋北冬太郎町

河内屋喜兵衛

同心齋橋筋安堂寺町

秋田屋太右衛門

江戸芝神明前

岡田屋嘉七

同 日本橋通二丁目

山城屋佐兵衛

同 横山町三丁目

和泉屋金右衛門

同 本石町十軒店

英屋大助

同 神田旅籠町二丁目

紙屋徳八

同 大傳馬町二丁目

丁子屋平兵衛

同 日本橋通一丁目

須原屋茂兵衛

同 日本橋通二丁目

須原屋新兵衛

同 日本橋通四丁目

須原屋佐助

同 神田通新石町

須原屋源助

同 浅草茅町二丁目

須原屋伊八

